

令和6年度 4年 探究デザイン図（総合的な学習の時間）

| | |
|------|----------------------------------|
| 研究主題 | 探究する子の育成 ～整理・分析に重点を置いた指導の工夫を通して～ |
| 内容 | 福祉 |

| | |
|------|--|
| 単元名 | いろいろな人と関わろう |
| 学習内容 | お年寄りや障がいのある方と交流し、誰もが暮らしやすい社会にするために、自分にできることを考え、今後の実生活に生かす。 |

| | |
|------------------------------|--|
| 整理・分析における指導の工夫 イメージマップの活用 | 他教科との関連 【中】国語「お願いやお礼の手紙を書こう」 【中】国語「聞いてほしいな、こんな出来事」 【中】道徳「ええことするのは、ええもんや!」 【中】道徳「マルガレーテ・シュタイフ」 【中】道徳「交流学習の前に」 【中】道徳「とびらの前で」 |
|------------------------------|--|

| | |
|--------|---|
| 本単元の目標 | お年寄りや障がいのある方と交流することを通して、どのような立場の人も平等であり、誰もが幸せに暮らせるようにするために福祉があることを理解し、自分もその社会の中で生きていることに気付くとともに、自分にできることを考え、今後の実生活に生かそうとすることができる。 |
|--------|---|

| 観点別 評価規準 | | |
|--|---|---|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ① 高齢者等の思いや願い、生活を支援する仕組みと、福祉の現状と課題を理解している。 | ① 身近な社会や体験から福祉について考え、問いを見出し、課題を立てている。 | ① 自ら問いを見だし、課題を立て、よりよい解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 |
| ② 高齢者等に適切に関わっている。 | ② 情報活用能力の技能を活用し、課題や状況に応じて考えるための技法を選択している。 | ② 自他のよさを生かしながら、友達と協働的に取り組み、新たな知を創造しようとしている。 |
| ③ ゲストティーチャーに必要な情報をインタビューし、情報を整理している。 | ③ 収集した情報を表やグラフ、思考ツールを用いて分類・整理し、特徴を見付けている。 | ③ 福祉の学習を通して、自分にできることを見付けようとしている。 |
| ④ 体験活動では、道具の特徴を知り、安全に気を付けて体を動かしている。 | ④ 相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現したり、学習を振り返り、学習や生活に生かそうとしていたりしている。 | |
| ⑤ 相手の立場に立って、福祉問題の解決やよりよい福祉を創造するための取り組みについて考えている。 | | |

【指導計画】

| 学習過程 | 課題設定 | 情報収集 | | 整理分析 | まとめ・表現 | 課題設定 | 情報収集 |
|--------------------|--|---|--|---|---|---|--|
| 時数 | 1・2 | 3 (高齢者福祉9月) | 4 | 5・6・7 | 8・9・10 | 1・2・3 (障がい者福祉10月) | 4 |
| ◎めあて | ◎福祉について考えよう。 | ◎高齢者施設の方にお話を聞いて、高齢者福祉について考えよう。 | ◎街中の福祉と高齢者福祉の関連について考えよう。 | ◎学んだことを整理分析しよう。 | ◎高齢者福祉についてまとめ、発表しよう。 | ◎高齢者以外の福祉について考えよう。 | ◎muchuの方に話を聞いたり、体験したりしよう。 |
| ○学習内容 | ○福祉について知る。 イメージマップ ○社会には、いろいろな立場の人が暮らしやすくなるための仕組みがあることを知る。 ○街中で見たことのある、福祉に関するものを出し合う。 | ○高齢者施設に行く。 ・高齢者の方との交流 ・施設の見学 ・施設の方に質問 | ○いろいろな立場の人が暮らしやすくなるための造りや工夫を考える。 →どんな人にとってどんなものがあると便利なのかを見たものや体験したことから考える。 | ○ICTを活用し、学んだことを整理する。そして、高齢者福祉について興味をもったことを詳しく調べ、分析し、理解を深める。 | ○街の造り・高齢者施設などの学習から、学んだことや調べたことについてまとめ、クラスの友達に向けて発表する。 ○友達の発表を聞いて、高齢者福祉への理解を深める。 | ○これまでの学習を生かして、高齢者だけでなく、障がいのある人や子育てをする人等、様々な立場の人に目を向け、福祉を幅広く考える。 例 ① どんな障がいのある人がいるだろう。 →目・耳・手足の不自由な人 ② 障がいのある人にとって、過ごしやすい社会だろうか。 ③ 障がいのある人にとって、どんな街や施設の造りだと便利だろう。 | ○話を聞いたり、体験したりする。 ・障がいのある人が困っていることがたくさんあるんだ。 ・障がいのある方に出会ったらどうしたらいいのかな。自分たちにできることは何か。 ・誰もが平等で幸せに過ごすために、どんな工夫があるのかな。(言葉・道具・施設・スポーツなどのバリアフリー) |
| 児童の意欲 気付き 疑問 | ・みんなが過ごしやすい工夫ってどんなものがあるのかな。 ・高齢者やシルバーカー、妊婦さんのマタニティマークを見たことがあるよ。 ・スーパーの駐車場には、車いすマークが書いてあるところがあったよ。 ・駅には、スロープやエレベーター、エスカレーターがあるね。 | ・施設の中は、車いすに乗ったまま移動することができるようになっていたよ。 ・お風呂やベッドなども高齢者の方にとって、便利につくりになっていた。 ・施設の中や道具は、工夫されたものがたくさんあったよ。 | ・街中にあるものと高齢者施設で見つけたものに同じものがあったよ。(自動ドア・トイレの取手など) ・おじいちゃんやおばあちゃんが使っていた道具は、何というものかな。高齢者の方を支える道具ってたくさんあるんだね。もっと調べてみたいな。 | ・どのようにまとめると伝わりやすいかな。 ・高齢者の方が使う道具が載っている本を見つけたよ。絵や写真があると分かりやすいね。 ・本で知ったことを、インターネットでも調べて、さらに詳しく広げてみよう。 | ・高齢者の方について調べたり、友達の発表を聞いたりして、高齢者の方が大変なことや、あると便利なものが分かった。これらは、高齢者の方だけでなく、障がいのある人や子育てをする人、小さい子供にとっても、便利なものだと思うな。 | ・スロープは高齢者のためだけでなく、障がいがある車いすで生活している人にとっても便利だと思う。障がいのある人はどうやって過ごしているのかな。調べてみよう。 | ○社会には、障がいのある方も元気に楽しく過ごせる工夫があることに気付く。 |
| □資源活用 | □イメージマップ | □高齢者施設カウピリ板橋 | □駅や街の写真 | | □高齢者施設の方へお礼の手紙を書く。 | | □ゲストティーチャーmuchu |
| ◇評価 | ◇知技① 思判表① 主① | ◇知技②③ 思判表② 主① | ◇知技⑤ 思判表② 主① | ◇知技⑤ 思判表③ 主② | ◇思判表④ 主③ | ◇知技① 思判表① 主① | ◇知技①② 思判表② 主① |

| 学習過程 | 情報収集 | | | 整理分析 | まとめ・表現 | 課題設定・情報収集 | 整理分析 まとめ・表現 | |
|--------------------|---|--|--|--|---|---|---|--|
| 時数 | 5 | 6・7・8 | 9 | 10・11 | 12・13 (13:探究発表会当日) | 14・15 | 16・17・18 | |
| ◎めあて | ◎障がいのある人や妊婦さん、高齢者の体験をして、どのような施設や造りだと便利か考えよう。 | ◎点字器・白杖・疑似体験セットなどを活用し、体験活動することで、実際に使用して生活している人のことを考えよう。 | ◎実際に車いすで生活している方の話を聞いたり体験したりして、自分たちにできることを考えよう。 | ◎自分の選んだテーマについて、学んだことを整理分析しよう。 | ◎自分たちが学んだことを沢山のの人に伝えて、福祉の輪を広げよう。 | ◎公平・平等について考えよう。 | ◎板十小の友達がみんな幸せに過ごせるように、自分にできることをまとめ、発表しよう。 | ◎福祉を実現させるために、どんな仕組みになっているか考えよう。 租税教室 |
| ○学習内容 | ○板十小で、いろいろな人の体験をして、どのような施設や造りがあると便利か、体験をもとに調べる。 ・引き戸が多い。 ・玄関のスロープ ・教室片面が全て開く。 ・エレベーターがある。 ・階段に点字ブロック ・1階の教室は、校庭から直接入れる。 | ○点字器を使って、点字を打ったり、点字を触ったりして、文字を書いたり読んだりする。 ○白杖を使って、実際に学校の中を歩く。ガイドヘルパーになって、どうすれば相手が安心できるのか考える。 ○疑似体験セットを使って、思うように体が動かない人の様子や気持ちを考える。 | ○下半身不随の方のお話を聞く。 ○実際に、車いすに乗ったり、押したりする体験活動をする。 | ○ICTを活用し、体験したり調べたりしたことを整理する。そして、興味をもったことを詳しく調べ、分析し、理解を深める。 ○健全者・高齢者・障がいのある方など様々な立場の人の共通点と相違点を考えよう。 ○バリアフリーについて学び、誰もが過ごしやすいするために福祉があること、また、それらを支えている人がいることに気付く。 | ○自分たちが学んできたことを多くの人に伝えて、福祉の輪を広げ、どんな人も過ごしやすいするために自分たちにできることを考える。 ○家族 ○友達 ○今まで教えてくださったゲストティーチャーの方など | ○身近な存在に目を向ける。 自分のクラス、学年、学校でもみんなが幸せに過ごせているか考える。 ・公平って何だろう。 ・平等って何だろう。 ○板十小で一緒に過ごす友達が幸せに過ごせるように、自分にできることは何か考える。 | ○福祉について学び、平等や公平について考えたことを自分たちの生活に生かす。 | ○福祉を実現させるためには、お金が必要であることに気付く。 ○お金は、どのようにして集められているのかを知る。 ○福祉を活用したいけど、お金がない人はどうしたらいいのかを学ぶ。 ○どんな人も幸せに過ごせるように福祉があることを、再度まとめる。 |
| 児童の意欲 気付き 疑問 | ・板十小は、高齢者や障がいのある人にとっても、過ごしやすい造りがたくさんあった。自分たちも大切に使いたい。 | ・白杖の使い方が分かった。でも、見えずに歩くことは不安だった。白杖を使っている人がいたら、不安を取り除く声かけやガイドをしたい。 | ・車椅子は便利だと思っていたけど、実際に乗って動かすのは大変だ。 ・横で支えてくれる友達や押してくれる人がいて、安心した。 ・車いすバスケットを見たことがあるけれど、実際に車いすに乗ってスポーツをするってすごいことだな。 | ・障がいのある人や妊婦さんなど、様々な立場の人がいることが分かった。誰もが幸せに暮らすことができるようにするために、自分たちにできることは何か。 | ・おじいちゃんおばあちゃんや家族・友達にも知らせたい。言葉だけの発表よりも体験したら分かってもらえそうだから体験の案内もしたい。町で助けを必要とする人を見かけたら、どうすればいいのかを伝えたい。 | ・得意・不得意がそれぞれ違う友達。お互いを理解し合って、自分にできることをし、みんなが楽しく学校生活を送ることができるようになりたい。 | ○振り返りをする。 | ・社会には、福祉を実現させる仕組みがあることを知った。自分たちや家族、友達もその中で生きている。助けを必要としている人がいたら、学んだことを生かして支えたい。 |
| □資源活用 | | □いたばし総合ボランティアセンター | □市民活動学習推進センターいたばし 広瀬さん | | □ゲストティーチャーの方々 □体験に必要な道具など | | | |
| ◇評価 | ◇知技⑤ 思判表② 主① | | ◇知技④ 思判表② 主③ | ◇知技③⑤ 思判表③ 主② | ◇思判表④ 主③ | ◇主③ | ◇主③ | ◇知技① 主③ |